

「微小貝による環境分析と打ち上げ貝を用いた環境教育 ～大阪自然環境保全協会「微小貝プロジェクト」～

Environmental analysis with micro shells and environmental education by using shells thrown up to the seashore - Osaka Nature Conservation Association "Micro Shell Project"

*芝崎 美世子¹

*Miyoko Shibazaki¹

1.大阪市立大学大学院理学研究科

1.Graduate School of Science,Osaka City University

「微小貝」は、成貝になっても、わずか数ミリほどの大きさにしかならない小さな貝である。一般にはあまり知られてないが、その種数はかなり多い。

大阪自然環境保全協会の「微小貝プロジェクト」は、これまで、この微小貝をテーマに、自然観察会や教育プログラムの開発、指導者講習会、インターネット教材「WEB図鑑」の開発や全国各地の海岸調査などを実施してきた。また、全国の海岸を調査し、打ち上げ貝を用いた環境教育プログラムの普及に努めてきた。

底生生活をする貝類は、魚類などよりも移動能力が乏しく、周辺の自然環境の影響を大きく受けるため、優れた環境指標となる。中でも、微小貝は、浮遊性、付着性など、多様な生態をもち、アマモや海藻などの剥ぎ取り食、プランクトンなどの濾過食、肉食性、腐肉食性のものまで、様々な食性をもっている。また、海岸地形、礫や砂など底質の違い、海流、潮汐による違いなどにより、その生息量や種構成に様々な影響を受ける。沿岸海域では、岩礁や砂浜、藻場、干潟など、様々な生態系が複合的に重なり合って、相互に関連して存在しており、多様な生物群集や季節変動などを理解するためには、それぞれの生息域（マイクロハビタット）の理解が欠かせない。

微小貝は、打ち上げ貝として、しばしば大量に産出する。こうした打ち上げ貝による観察は、サンプル採集が容易で、シュノーケリングなどの特別な道具を必要としないため、子供から高齢者まで行うことができ、各海岸の自然環境の違いや自然環境の働きを理解するのに役立つ。打ち上げ貝は、海岸形状や周辺地質、河川からの土砂の流入量、天候などの影響を受けて、打ち上げ条件が変わり、同じ海岸でも調査地点の地形や天候により種構成が変化する。しかし、このような打ち上げ貝の微小貝を調べることで、沿岸域の総合的な環境評価に用いることができる。

本発表では、これまで「微小貝プロジェクト」で調べた須磨海岸（兵庫）、尾崎海岸（大阪）、和歌浦（和歌山）、増穂浦（石川）、由比ヶ浜（神奈川）、琴引浜（京都）における海岸別の微小貝出現種、地域特性や環境評価について報告する。また微小貝を用いた環境教育についても解説する。

キーワード：微小貝、環境教育プログラム

Keywords: Micro shell, environmental educational programs